

令和4年度 学校評価報告書（自己評価書・学校関係者評価書）

令和5年2月14日作成

中期目標	重点努力目標（評価項目）		自己評価	総合評価	達成状況と成果	関係者評価	学校関係者の意見・要望	今後の改善方策 次年度への課題 （★学校関係者評価を受けて）
①学び方改革～自ら考え、共に学ぶ問題解決 決的な授業の実践	自ら学ぶ～個別最適な学び	・自ら「問い」を見つけ、「探究心」をもって、追究することができる生徒を育てる	A	A	・市教育委員会から委嘱を受け取り組んだ「自らの意志で学び続け、未来の創造に向けて動きだす生徒の育成」では、生徒の意欲がわくような授業を構想し、全職員で実践した。「授業がわかりやすい」「自分で調べたり考えたりするようになった」と実感できた生徒が3年間にわたって増加し続けた。	A	・授業中に互いのよさを認め合う雰囲気があって、安心して発言したり活動したりできている。 ・3年間の研究のがんばりと成果が感じられる。	・研究発表が一段落したが、これからも工夫のある単元や、わかりやすい授業が実践できるように取り組んでいきたい。 ・保護者や地域の理解と協力を得ながら、生徒個々の調べ学習や体験学習の充実を図り、生徒が主体的に学ぶ機会を増やしたい。
	共に学ぶ～協働的な学び	・「対話」や「話し合い」を通して交流し、互いに学び合うことができる授業を実践する	A					
	学びを深める～主体的・対話的で深い学び	・「自分の考え」を深め、「新たな考え」を創り出し、生活に生かすことができる授業を展開する	A					
②みんなが参加し、みんなで輝くことのできる生徒主体で活力のある学校	自ら気づく～一隅を照らす	・「あたりまえ」を見える形にして、自分の役割を精一杯果たすことができる生徒を育てる ・感性を磨き、正しい心、善き心、美しい心（真善美）に気づける生徒を育てる	A	A	・未だコロナ禍ではあるが、学校行事において生徒会や実行委員会を中心とした生徒主体の取り組みをし、学校に活気を取り戻した。生徒のアンケートでも90%以上の生徒が「よかった」と回答している。 ・自分の将来や生き方について考えている生徒は、「よく考えている」生徒は昨年度よりも増加しているが、35%と低い傾向にある。	A	・校長先生が掲げている目標が、温かく具体的でとてもよい。 ・思春期は自分探しの時期なので、生き方や目標を探ることはとても大事だと考える。	・コロナ禍で中止になったり縮小したりした活動を徐々に元に戻しながら、生徒主体の行事や教育活動を行っていききたい。また、保護者や地域のかたに学校の様子を見ていただく機会も増やしていく。 ・中学校卒業後の進路のみならず、将来の夢に向かって生徒自身が歩んでいけるよう、外部講師による講演会を催すなど、生き方教育にも力を入れる。
	共に高め合う～ワンチーム	・生徒が考え、生徒が主体となり、みんなで協力することができる活動を推進する ・地域に学び、地域と共に成長する生徒を育てる	A					
	みんなで輝く～夢と志は自分を原動力	・誰一人置き去りにしない持続可能な社会を創り出すことのできる活動を推進する ・志を立て、自分の夢の実現に向けて挑戦を続けることができる生徒を育てる	B					
③みんなが安心して、みんなで楽しく過ごすことのできる思いやりのある学校	不登校ゼロ～一人一人を大切に	・教室を「安心・安全な場」にして、「ありのままの自分」を認め合うことのできる文化を築く ・「困難を抱えている子」の問題のありかを知り、「適切な支援」をする	A	A	・日常の授業をはじめ、道徳や学活の場で「思いやり」「感謝の心」について考える機会を設けた。 ・不登校生徒（年間30日以上欠席）の人数は5%程度いる。ふれあい教室やほっとプラザの利用、夕方登校などにより、以前よりも改善方向に向かっていく生徒も多く見られた。	B	・学校に来ることが「絶対」ではなく、生徒個々に応じた対応をお願いしたい。 ・年に一回劇団等を招いて「心で感じ、心で動く」ような行事を、保護者も一緒にできるようになるとよい。	・授業で仲間の意見に耳を傾けてしっかり聞く姿勢や、仲間に対して寛容な心をもてるような取り組みを大切にしていきたい。 ・不登校生徒には、学校でできることと外部機関に依頼することとで、一人一人の要望や保護者の願いに応じていけるようにする。
	いじめゼロ～心で感じ、心で動く	・「対話」して互いの違いを理解し、「思いやり」と「感謝の心」で行動できる優しい心を育てる ・心を磨き、考えて行動し、自分の行動や自分の言葉に責任がもてる強い心を育てる	B					
④働き方改革～共に学ぶ姿勢の励行 致と率先垂範の励行	授業力の向上～共に考え、共に学ぶ	・「愛情」と「誠実さ」で生徒と向き合う ・教師が火種となり、生徒の心に火をつける	A	B	・研究発表もあり、多くの研修や実践を重ね、授業力の向上を実感した教員が多かった。 ・授業案作成、授業準備等に多くの時間を費やしたが、後半は仕事を効率的に進め、在校時間を減らすよう努めることができた。	A	・学校で一番大事な授業に対して、教科の枠を越えて全職員で取り組んで力をつけたところがすばらしい。 ・教師としての力量が増したのではないかと。	・3年間の研究で培った授業力、実践力を今後も継続していきけるよう、現研や授業研究会を行い、生徒とともに学ぶ姿勢をもてるようにするとともに、保護者や地域の声を聞き、教育活動に反映させていく。 ・校務分掌の見直しや会議の持ち方等を再検討し、職員の負担均等を目指す。
	人間力の向上～謙譲の精神で、徳を磨く	・下問を恥じず、柔軟な思考と果敢な行動力で改革をすすめる、勤務時間外在校時間を減らす ・「時を守り 場を清め 礼を正す」を励行し、「あたりまえ」を見える形にする	B					

【自己評価 A：十分に達成されている B：概ね達成されている C：あまり達成されていない D：ほとんど達成されていない】

【総合評価 自己評価をもとに上記のA・B・C・Dで評価】

【関係者評価 A：適切である B：概ね適切である C：あまり適切ではない D：適切とは言えない】